特集

"もしも"はいつも突然に
考えてみよう、災害のこと

大分地方気象台から国東市の皆様へ

大雨に備える

令和6年 台風第10号

台風第10号は、令和6年8月27日に非常に強い勢力で奄美大島に接近し、29日8時頃には強い勢力で鹿児島県薩摩川内市付近に上陸しました。

その後、北東に進路を変えながら30日昼過ぎにかけて大分県を横断し、9月1日正午に東海道沖で熱帯低気圧に変わりました。

台風第10号による大雨

台風第10号の影響により8月27日から31日にかけて、大分県内の広い範囲で大雨となり、29日の朝には大分県中部・北部に線状降水帯が発生しました。

29日は、**アメダス国見で観測史上1位の記録**となる、**日降水量359ミリ**（図1）を、同観測所で8月の2位の記録となる**日最大1時間降水量72ミリ**を観測するなど、記録的な大雨となりました。

梅雨入りしました

気象台は、九州北部地方（山口県を含む）は6月8日頃に梅雨入りしたとみられると発表しました。平年より4日遅い梅雨入りとなりました。

6月から7月にかけては、年間で最も降水量の多い時期となっており、大雨への注意が必要です。

梅雨前線が対馬海峡から九州北部地方付近に停滞している場合に、南西から暖かく湿った空気が次々と流れ込んでくることで、大分県西部を中心に大雨となることがあります。

この暖かく湿った空気が大量に流れ込むと、大雨の範囲が大分県北部まで広がり、**国東市でも大雨となる可能性**があります。

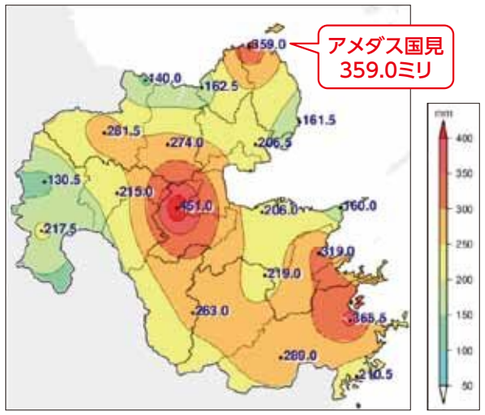


図1：2024年8月29日　日降水量分布図

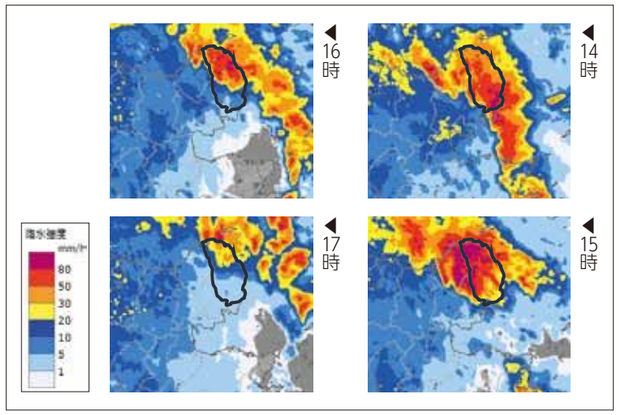


図2：2024年8月29日　雨雲の動き

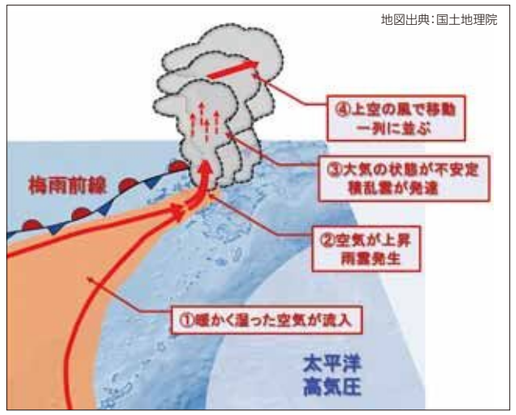


図3：梅雨時期の大雨発生メカニズム

大雨から命を守るコンテンツ

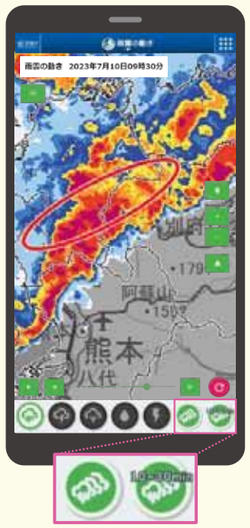
「雨雲の動き」を活用しよう

気象庁ホームページには「降水の強さ・雷の激しさや発生の可能性・竜巻などの激しい突風の発生のしやすさ」の今の状況や、1時間先までの雨雲分布の予測を確認できる「**雨雲の動き**」というコンテンツがあります。

線状降水帯が発生すると、災害発生の危険度が急激に高まりますので、どこで発生しているのかを把握しておくことが大切です。

「雨雲の動き」はこちらから！

スマートフォン上での表示例



この2つのアイコンをクリックすると、線状降水帯**発生時に**、「雨雲の動き」の画面上に**赤い楕円**が表示されます。

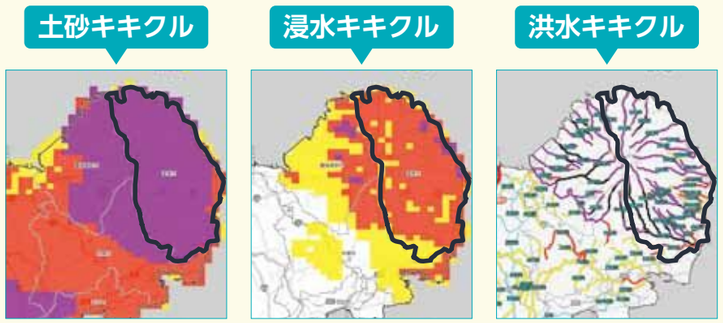
「キキクル」を活用しよう

激しい雨が降っている場所は「**雨雲の動き**」で確認できますが、災害発生場所・時間とは必ずしも一致するとは限りません。

そんな時、ご活用いただきたいコンテンツが「**キキクル**」です。

「キキクル」は大雨時の主な3つの災害「土砂災害」「浸水害」「洪水災害」の危険度を5段階で色分けして、インターネット上にリアルタイムで表示します。

「キキクル」はこちらから！



2024年8月29日　15時30分

黄：注意 レベル2相当 → 赤：警戒 レベル3相当 → 紫：危険 レベル4相当 → 黒：災害切迫 レベル5相当

キキクルは「**黒色**」の出現を待たず
「**紫色**」までに避難の判断を!!

日頃から身の周りの危険な場所や避難場所をハザードマップで確認し、実際に歩いて、自分の目で見て確認してどのような危険が潜んでいるのかを知っておくことが大切です。

気象台では、大雨となる前から危険度の高まりに応じて段階的に情報を発表します。

天気予報の解説で「大気の状態が不安定」や「激しい雨が降る」といった大雨となりうるキーワードを見聞きしたら積極的な防災気象情報の入手に努めてください。

また、「**雨雲の動き**」や「**キキクル**」などを活用し身を守る行動につなげてください。